

暑中お見舞い申し上げます。

ラベルニュース

No422

令和2年8月号

東京都ラベル印刷協同組合

編集:広報・情報システム委員会

☎111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

「小規模企業白書」を公表 生産性高い企業の廃業が増加傾向

このほど中小企業庁での「小規模企業白書」に焦点を当ててみました。白書・小規模企業白書」を二〇二〇年版「小規模企業白書の概要は、第1部ですが、「小規模企業白書」は今回で五十七回目です。今回で六回目です。

二〇二〇年版白書では、中小企業・小規模事業者に期待される「役割・機能」や、それぞれが生み出す「価値」に着目し、経済的な付加価値の増大や、地域の安定・雇用維持に資する取組を調査・分析しました。また、新型コロナウイルス感染症の影響や、中小企業・小規模事業者における具体的な対応事例等についても掲載しています。

新型コロナウイルスに関する経営相談窓口の利用状況では、すべて資金繰り関連であり、製造業が飲食業に次いで二番目となっています。当組合は圧倒的に小規模企業が多いので、今回はこの

の「小規模企業白書」に焦点を当ててみました。二〇二〇年版「小規模企業白書の概要は、第1部では、中小企業・小規模事業者の動向に関する分析に加え、中小企業・小規模事業者の労働生産性、新陳代謝、多様性と役割・機能について分析を行っています。第2部では、地域の課題と小規模事業者の存在感について確認した上で、地域生活や雇用を支える小規模事業者の取組について分析しており、第3部では、中小企業政策の変遷を確認した上で、中小企業・小規模事業者における経営課題への取組、中小企業支援機関の役割について分析しています。

下（商業又はサービス業は五人以下）の事業者のことです。なお、本白書の本文中では、「小規模企業」に、会社のみならず、個人事業者も含まれることをわかりやすく記すため、「小規模企業」のことを「小規模事業者」としています。

●第1部 令和元年度（二〇一九年度）の小規模事業者の動向

●中小企業・小規模事業者の動向 中小企業・小規模事業者の業績は二〇一九年以降横ばいから低下傾向が見られること、感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれる中、多様な課題に対処する必要があります。ことなどを指摘しています。

●中小企業・小規模事業者の労働生産性 中小企業の労働生産性が横ばい傾向で推移しており、業種に関わらず大企業との格差が存在していること、その一方で、中小企業の中にも大企業の労働生産性を上回る企業が存在することなど、

●中小企業・小規模事業者の存在感 人口密度が低い地域では、小規模事業者の存在感が相対的に大きいこと、地域において、商店

●中小企業・小規模事業者の新陳代謝 企業の廃業は、経済全体の生産性向上に寄与する側面がある一方、生産性の高い企業の廃業も一定程度生じていることなどを示しており、また、生産性の高い企業の廃業の背景には、経営者の高齢化と後継者不足があると考えられ、企業の貴重な経営資源を散逸させない事業承継の取組が重要性を増していることなどを指摘しています。

●中小企業・小規模事業者の多様性と役割・機能 中小企業・小規模事業者の「目指す姿」を四つの類型に分類した上で、それぞれの特徴を分析し、業種だけでは捉えきれない異質性を有することなどを指摘しています。

●第2部 地域で価値を生み出す小規模事業者

●地域の課題と小規模事業者の存在感 人口密度が低い地域では、小規模事業者の存在感が相対的に大きいこと、地域において、商店

●地域の課題と小規模事業者の存在感 人口密度が低い地域では、小規模事業者の存在感が相対的に大きいこと、地域において、商店

業者と支援機関

街の衰退や生活インフラの脆弱化、地域労働市場のミスマッチ、地場産業の衰退などが大きな課題となっていることなどを指摘しています。

●地域の生活を支える小規模事業者 商店街の来街者数が減少する中で、店舗数も減少しており、空き店舗問題が顕在化してきていること、地域の小規模事業者にとって身近な住民の需要の確保がまずは重要と考えられることなどを指摘しています。

●中小企業政策の変遷 我が国の中小企業政策の基本理念や基本方針を定める中小企業基本法や、中小企業支援体制の変遷について概観している。

●中小企業・小規模事業者における経営課題への取組 現状把握、経営計画の策定・運用を行う上で、外部支援の活用が有効であること、日常の相談相手の存在が経営にとって有益であることなどを示しています。

●中小企業支援機関の役割 支援機関ごとにも強み・弱みが存在すること、「商品・サービス」の開発等や「技術・研究開発」の分野で支援機関同士の更なる連携が期待されることなどが指摘されています。

●付加価値の創出に向けた取組と地域活性化 人口密度の低い地域では地域外需要の獲得が必要となること、地域課題解決への取組が新たな事業機会につながることを指摘しています。

●付加価値の創出に向けた取組と地域活性化 人口密度の低い地域では地域外需要の獲得が必要となること、地域課題解決への取組が新たな事業機会につながることを指摘しています。

●付加価値の創出に向けた取組と地域活性化 人口密度の低い地域では地域外需要の獲得が必要となること、地域課題解決への取組が新たな事業機会につながることを指摘しています。

●付加価値の創出に向けた取組と地域活性化 人口密度の低い地域では地域外需要の獲得が必要となること、地域課題解決への取組が新たな事業機会につながることを指摘しています。

<https://www.chusho.meti.go.jp/>

第3部 中小企業・小規模事

日印産連新会長に藤森康彰氏が

SDGsを軸にしながら諸事業を

日本印刷産業連合会は、このほど第三十五回定期総会を书面決議にて行い、任期満了に伴う役員改選では金子眞吾会長に代わり、共同印刷(株)代表取締役社長の藤森康彰氏が第十一代会長に就任しました。

日印産連は傘下十団体、七千二百社の会員が全国に存在し、GPや二酸化炭素削減などに積極的に取り組んでいます。

二〇二〇年度の事業計画の基本方針は、SDGsを軸に社会貢献をしていくとしているが、今年度の重要テーマとして、①地方創生への貢献 全国にある印刷会社がこれまでのビジネスの経験を活かし、地域活性化に貢献する②女性活躍推進 ダイバーシティ経営や人権及び多様性の尊重に関わる活動を積極的に継続する③地球環境への配慮 印刷産業におけるサプライチェーン全体で、印刷産業における環境負荷の低減を図る④二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックへの対応の四つが挙げられています。



藤森康彰会長

藤森新会長は「印刷業界はデジタル化の進展を受け需要が縮小しております。さらに今年度は環境負荷低減や取引慣行の改善、働き方改革といった従来の課題に新型コロナウイルス感染症による経済界への深刻な影響が加わり、大変厳しい状況となっています。皆様とともに「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の世界を見据え業界の抱える課題解決と革新に全力で取り組む所存です」と抱負を述べています。

全日シール連合会第六十一回通常総会 各協組と連携図り課題に取り組み

全日本シール印刷協同組合(田中祐会長)は、五月二十七日に東京正札シール会館に於いて「第六十一回通常総会」を開催しました。

今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、小規模で開催され、各議案はすべて可決されました。

第一号議案・「二〇一九年度事業報告」では、技術優良工場認定制度、シール・ラベルコンテスト、世界ラベルコンテストについて説明、第二号議案・「二〇二〇年度事業計画」では、経営、環境、技術、特許、広報の各委員会事業について説明があり、オンデマンドセミナーや技術伝承セミナーDVDの充実、またテクニカルマニユアルの再発行などが盛り込まれました。

予算案は二、五八〇万四千円が計上され可決されました。

今年度は「各協組と連携を図りながら、環境問題、人材育成・営業力強化、技

術力のレベルアップなど、個々の企業では限界がある課題に対しタイムリーなテーマで事業を実施していく」としています。

現状報告では、組合員十社減の四二六社、会友は二社減の七八社、計五〇四社となりました。

なお、十月十六日に開催を予定していた「第六十二回年次大会・東京汐留大会」は、新型コロナウイルス感染症対策により中止を決定しました。

このため例年式典の中で開催するシールラベルコンテストの表彰式も中止が決定され、今年のコントテストの入賞者に対しては表彰状とトロフィを同日付で送付する予定。

例年九月に開催されている日印産連の印刷文化展での表彰者は、印刷功労賞は東海北陸シーリング組合の岩田真人氏、印刷振興賞には正札シール組合の守屋則彦氏がそれぞれ候補として決定しました。

ラベル会開催

中村裕之氏が二連覇

で開催されていましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、ラベル会単独の開催となりました。

第一一四回ラベル会は、七月十五日(水)に、茨城県「江戸崎カントリー倶楽部」に於いて、四組十五名が参加して開催されました。梅雨の真つただ中の開催でしたが、傘をさすほどの雨にはならず、この時期としては絶好のゴルフ日和でした。

本来ならこの時期は組合研修旅行の一環として一泊

となり、ラベル会二連覇となり、二位にはマルウ接着の妻鳥洋一氏(四七、四七、九四、HD二〇、NET七四)が繰り上げとなりました。

ベスグロは恩田博氏(四四、四三、八七)でした。

優勝した中村氏は「最近ではコロナの影響でイメージトレーニングばかりしていましたが、お天気にもメンバーにも恵まれ、思いがけず二連覇となり、プライベートの「ホンマ会」も合わせる三連覇ということになりました。また次回頑張ります」と挨拶しました。



振り返れば五十年 私のラベル業界半世記

専務理事 本間 敏道(2)

私が包装タイムスに入社した昭和四十五年当時のシール・ラベル業界は、昭和三十六年に業界で共有した

「セルフラベル特許」によって、大手からの参入を防ぎ、高度経済成長とも相俟って、右肩上がりの急成長を遂げていました。

その材料となる粘着紙も昭和三十四年に竹内化学が国産初の粘着紙の開発に成功し、その後狭山化工、東邦紙工、不二紙工、ニチバン、大日本インキ化学工業、モダンプラスチック工業が相次いで製造、販売を開始しました。

昭和四十五年には、「粘着原紙業界に黒船襲来」という大きなニュースが飛び込んできました。私もこのニュースのために、まだ新米記者にもかかわらず、あちこちへと取材に走らされました。

世界最大のラベル総合メーカーである米国のアベ

リー社が当時の山陽パルプと合併で「山陽ファッソン」(後の創研加工)を設立したのです。

初の外資の進出と製紙メーカーの進出に、既存の粘着製紙業界には大きな衝撃になったようで、取材先でもこの話題でもちきりとなり、そのショックの大きさが伝わってきました。

これを契機に王子製紙、神崎製紙、日本パルプ工業などの製紙メーカーが外資と組んで粘着原紙業界に進出し、專業グループ系と製紙グループ系とに分かれ、激しい販売競争が繰り広げられることになったのです。

初めてシール・ラベル印刷業界の取材をしたのは、当時ラベル組合の専務理事だった池田欣二さんを訪ねたときでした。

まだ何も分からない私やその歴史、そして組合のことなどについて、親切に

教えてくれました。

池田欣二さんとはそれから亡くなるまで三十年の長いお付き合いとなり、現役を引退されてからも、ご子息の池田俊平さんが、会長の所にたまに顔を出してくれよ。本間さんが来ると会長も喜ぶから」と電話を頂き、そのたびにお邪魔をして昼食やお茶をご馳走になりました。

ラベル組合は昭和四十年の九月に十九社で発足し、すでに四年が経っていました。初代の理事長は戸塚與三郎氏で、池田さんが理事長に就任されたのは昭和四十六年の第五回総会の時で、その後昭和五十八年に日野七郎氏にバトンタッチするまで六期十二年にわたって理事長の要職を務め、昭和五十年には全日本シール印刷協同組合連合会の会長にも就任しました。

池田さんの凄かったことは、何冊もの本を自費出版されたことです。特に「シール印刷業界五十年史」(昭和三十八年)、「シール印刷業の動静史」(昭和五十年)の二冊は、その後私が昭和六十三年に連合会より依頼されて発刊した「シール印刷のあゆみ七十七年史」を執筆するうえで、参考文献として大いに役立ったこととは言うまでもありませんでした。

池田さんは業界の近代化にも積極的貢献し、第一次構造改善事業では、「シール印刷業の概況と問題点について」と題する資料を連合会専務理事としてまとめ、これを通産省に提出し、これによってシール印刷業も指定業種となり、その後第四次構造改善事業まで続いた業界の近代化に大きな足跡を残されました。

版されたことです。特に「シール印刷業界五十年史」(昭和三十八年)、「シール印刷業の動静史」(昭和五十年)の二冊は、その後私が昭和六十三年に連合会より依頼されて発刊した「シール印刷のあゆみ七十七年史」を執筆するうえで、参考文献として大いに役立ったこととは言うまでもありませんでした。

池田さんは業界の近代化にも積極的貢献し、第一次構造改善事業では、「シール印刷業の概況と問題点について」と題する資料を連合会専務理事としてまとめ、これを通産省に提出し、これによってシール印刷業も指定業種となり、その後第四次構造改善事業まで続いた業界の近代化に大きな足跡を残されました。

その後通産省に通うたびに、交通費のお釣りである五円玉を集め、それを糸に通したものを見せていただいたことがあります。こうした池田さんの努力と熱意がなかったら、業界の近代化はもっと遅れていたかもしれません。(続く)

池田さんの凄かったことは、何冊もの本を自費出版されたことです。特に「シール印刷業界五十年史」(昭和三十八年)、「シール印刷業の動静史」(昭和五十年)の二冊は、その後私が昭和六十三年に連合会より依頼されて発刊した「シール印刷のあゆみ七十七年史」を執筆するうえで、参考文献として大いに役立ったこととは言うまでもありませんでした。

No172 健康がいちばん!

霰粒腫と麦粒腫(ものもらい)

似ているようでまったく違う病気

■霰粒腫と麦粒腫とは

眼の病気にも白内障、緑内障、結膜炎、角膜炎、加齢黄斑変性等々、さまざまありますが、霰粒腫と、ものもらいというのを聞いたことがあると思います。

霰粒腫（さんりゅうしゅ）は、まぶたの奥にある

ている人がいますが、この二つは呼び名が違うように、まったく違う病気なのです。ぶた全体が腫れることもありません。腫れた部分の中心にしぼれば黄色っぽい小さな点ができることがあります（通常はまぶたの縁にみられます）。麦粒腫は二〜四日後に破れて、少量の膿が出て終わるといいう傾向があります。

■霰粒腫とは

霰粒腫では、初期症状としてまぶたの腫れ、軽い痛み、刺激感などが現れます。しかし、これらの症状は数日で消え、まぶたに丸くて痛みのない腫れが残ります。この腫れは、最初の一週間程度で徐々に大きくなりま

す。ときに、腫れが大きくなり続けて眼球を圧迫し、少し目がかすむこともありま

す。まぶたの下側に赤色または灰色の部分が見れることがあります。

■麦粒腫(ものもらい)とは

脂腺が腫れて（吹き出物のように）、腺の開口部がふさがるために起こります。麦粒腫（ばくりゅうしゅ）と呼ばれるものもらいは、一般にまつ毛の毛包の感染症です。

よく、ものもらいと霰粒腫は同じ病気だと勘違いし

は、赤くなる、押すと痛む、または特に触れなくても痛むといった症状から始まりま

■治療方法は

ほとんどの場合、霰粒腫は特に治療しなくても二〜八週間で消失します。一日に二〜三回、五〜十分ずつ）温湿布をあてると、早く消失することがあります。この期間を過ぎても変化がない場合は、内容物を排出させたり、コルチコステロイドを患部に注射したりする

ことあります。霰粒腫は感染症ではないため、通常、抗菌薬は無効です。

麦粒腫(ものもらい)の最善の治療法は、温湿布をあてることです。温めることにより麦粒腫に膿がたまり、破れて自然に膿が出ます。

外麦粒腫が湿布をあてても消失しない場合、医師による排膿が必要になることがあります。内麦粒腫は自然に破れることがめったにないため、外科的に膿を排出しなければならぬことがあります。内麦粒腫は再発する傾向があります。

麦粒腫の治療に抗菌薬が処方されることがありますが、麦粒腫は治療をしなくてもほとんどは自然に消失する傾向があるため、多くの場合あまり役立ちません。ときに、眼の周りに感染が起こった場合や内麦粒腫の手術の後に感染が起こった場合に抗菌薬が経口で投与されることがあります。

【参考資料】

<https://www.msmanuals.com/ja-jp/ホー4/20>

HOYA (株) オプティク部門(東京都新宿区三の六の十一) 〇三・六八九四・一〇四三)では、これまでUV光源装置を製造販売してきたが、ラベル印刷に特化したLED・U

空冷式 UV-LED ライン照射器
消費電力は 50%以下、寿命は 10 倍



特長としては、①二〇/W²cm²の超高照度②空冷式で水冷式並みの超高積算光量③通常UVインキもOK④ミラーなど多種多様なオプティクスあり。

この他の特長としては、省エネ・消費電力はメタハラランプの五〇%以下で寿命は十倍以上

ダクトレス+環境改善・ブロー、ダクトはいりません

ダクトの熱もありません

エアコンの効きもよくなり室温が下がる。

省スペース化・電源の場所をとらない

空いたスペースにもう一台印刷機を置ける

新規でも置換でも取り付け可能

これまでLED・UVは乾かないというのが常識だったが、同社ではこれまでに印刷機メーカーやシール印刷業者の協力を得て、テストを繰り返し、デモ機などの貸し出しも積極的に行ってきたが、概ね高い評価を得たため、今回、恩田製

作所の平圧機(OPM・一五〇/OPM二二五〇)に搭載するUVランプの置き換えの選択肢の一つとして、取り扱うことが決定し、恩田製作所を販売窓口として販売する。

このLSシリーズは、これまでの常識を覆し、UV乾燥機の主流になる日も決して遠くはないかもしれないというのが、テストをしたシール業者の一致した見方

のような。

LS三二〇 (APシリーズ)の仕様は次の通り。

- 外形寸法(W、D、H) 五二〇×一二五×二五〇mm
- 入力電圧 〓DC四八V
- LEDヘッド重量 〓十一kg
- UVピーク強度(照射窓面、W、D) 〓mm 〓二〇(◎)三八五mm
- 調光制御範囲 〓一〇〓一〇〇%
- 制御方式 〓I/O制御、RS—四八五制御

同社のホームページは

<http://www.hoya.co.jp/>